

ウィキペディア

日本自動車博物館

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

日本自動車博物館（にほんじどうしゃはくぶつかん）は、石川県小松市二ツ梨町にある自動車をテーマとした博物館。

目次

概要

展示・収藏品

イベントなど

明治記念館

アクセス

脚注

参考文献

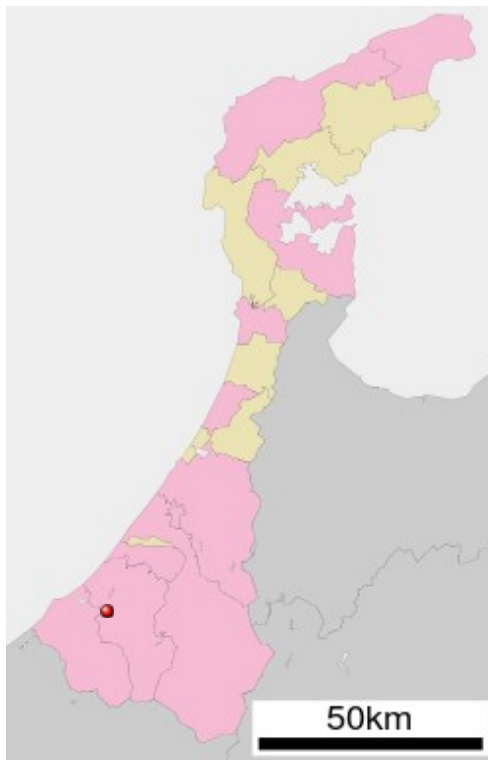
外部リンク

概要

1978年（昭和53年）11月、富山県小矢部市にセメント販売業・石黒産業社長（当時）の前田彰三（1930年 - 2005年、初代館長）が個人収集した自動車をもとに自社の旧社屋を利用して開設^[1]。当初の建物が国道8号沿いの立地で、道路拡幅に伴い立ち退きを強いられたことを機に、1995年（平成7年）6月に加賀温泉郷を周囲に抱える石川県の現在地に移転した^[1]。これは自動車愛好家の来訪だけに頼らず、温泉地を訪れる観光客も広く招き入れて、博物館の安定した存続を図ろうという運営上の意図も含んだ移転であった。

前田は若くして家業を継いで経営拡大を進め、建設業やプロパンガス販売など広範なビジネスを手掛けた北陸地方有数の実業家で、自動車愛好家でもあったが、高度成長社会の中でトラックに代表される実用車が使い潰されていく風潮を良しとせず、それら

日本自動車博物館 Motorcar Museum of Japan



日本自動車博物館の位置

施設情報

愛称	MMJ, くるぱく
専門分野	自動車
管理運営	石黒産業株式会社
開館	1978年11月
所在地	〒923-0345 石川県小松市二ツ梨町一貫山40番地

実用車の収集に取り組むようになった。自動車博物館の開設とコレクション拡充に後半生をかけ、死去直前の2004年には「スバル・360」主任設計者の百瀬晋六、初代トヨタ・カローラ開発主査の長谷川龍雄らと並んで「日本自動車殿堂」に列せられた。

現本館は赤レンガ造り風の3階建てで、延床面積11,550m²。館内はメーカー、種類などに分けて展示されているほか、レストラン、ミュージアムショップが館内に併設されている。また、館内には「世界のトイレ」として各国の便器が設置されている^[1]。1995年の移転の際に設置され^[2]、1階から3階の各フロアにアメリカやヨーロッパ、アジアではベトナムなど15か国の便器を設置し実際に使用できる^[3]。2018年時点では、これら15か国の便器は総計56個ある^[1]。500台を展示する名車とともに、様々な色・デザインの便器が撮影されてInstagramなどでSNSで発信され、インターネット上で注目を集めている^[4]。

展示・収蔵品

1901年(明治34年)から平成初年代までの国内外の車約500台の自動車が常設展示されている。ほとんどがエンジンのかかる状態で保存されている^[3]。

著名な高級車やスポーツカーに留まらず、日本ではこの博物館でしか見られない極めて希少な外国車（旧ソビエト連邦製「ZIL」や1980年代以前の中国製「紅旗」など共産圏の自動車も含む）や、通常、積極的保存の対象とされにくい日本製の古い商用車なども多数展示されているのが特徴である。創立者の前田彰三が商用車の収集をも重視し、また中国要人にもコネクションを持っていたことが背景にある。

収蔵台数の充実度や広範さという点においては日本の自動車博物館の中でも最高レベルと言え、収蔵車のコンディションはいずれも概して良好である。実働可能な車両も多く、繁雑期には駐車場にてクラシックカーの体験乗車なども行われる。

ただし収蔵台数が極端に多いため、フロア面積確保に努めてはいるものの、館内に展示車がぎっしりと詰め込まれた状態で、個々の展示車両を多面的に観察するゆとりには乏しい。各車は生産国と製造年を示すナンバープレート風看板を装着されているが、一部に誤りが見受けられ、また展示車両の傍らに立てられた案内札には、事実と相違する誤った内容や、出典不明の惹句的記述などが散見されるため、見学時の参考資料としては注意を要する。

以下は収蔵車の一部であるが、これらの他にも「この博物館にしか現存が確認されていない」ほどの貴重な自動車が多数所蔵されている。

- トヨタ・2000GT
- ロールス・ロイス・シルヴァースパー（元は英国大使館の公用車。ダイアナ妃来日の際の御乗用車として用いられた個体）

位置	北緯36度20分4秒 東経136度25分50秒
外部リンク	日本自動車博物館 (http://mmj-car.com/)
	プロジェクト:GLAM



正門



フロアの様子

- トヨタ・ABRフェートン（1938年製）
- 九四式六輪自動貨車（太平洋戦争前の日本陸軍の軍用大型トラック。本館所蔵車は終戦後に後1軸を取り外す4輪化改造を受けてはいるが、唯一の現存例である）
- 九五式小型乗用車（くろがね四起、日本初の量産型四輪駆動車。現存するのは本車を含め数台である）
- JACニューエラ号（1930年式） 1930-50年代の著名なオート三輪「くろがね」の前身である、日本製オート三輪の古典的モデル。チェーンドライブ仕様の極めて初期の現存車。
- オースチン・A135（オースチンの第二次世界大戦後における最高級リムジンで英国王室の御料車にも使用されたモデル。所蔵の個体は元大韓民国駐日大使公用車）
- ジオット・キャスピタ（バブル期に生産された2台のうちの1号車）
- トヨペット・スーパー RHK型（トヨタ・クラウン以前のタクシー需要車。案内札によると関東自動車工業製モデル(RHK)唯一の現存としている）
- オーテック・ザガートステルピオ 日産・レパードをベースにザガートがデザインした少量生産車。サイドミラーを内蔵したフロントフェンダーを特徴とする。同様な成り立ちのザガート・ガビアと共に展示されている。
- プリンス・スカイライン・スポーツ

また、創立者の前田彰三が生前に自ら所有し運転したローバー・P5やルノー・サフラン（前田最後の愛車となった）なども、本館に収蔵されている。

イベントなど

収蔵車以外にも機会を捉え、個人所蔵の希少車を借用しての特別展も実施している。収蔵する車種の広範さや、北陸自動車道・国道に近い立地の良さもあって、特定車種の自動車愛好家によるミーティングイベント会場に利用される機会も多い。

稼働可能ないすゞ製ボンネットバスの乗車体験を催行したり、ありふれた量産セダンのマツダ・カペラを、石川県の伝統工芸技術・金箔張りの技術で車体全体金箔張りにして展示するなど、親子連れや観光客にも関心を喚起する硬軟の取り組みがなされている。

明治記念館

富山県西礪波郡水島村（現・小矢部市）役場などとして使われた明治中期の西洋館が、「明治記念館」として敷地内に移築されている。内部は公開日以外は非公開。

アクセス

所在地 - 石川県小松市二ツ梨町一貫山40番地

車:

- 北陸本線栗津駅 車10分
- 北陸本線加賀温泉駅 車15分
- 国道8号沿い（小松バイパス、二ツ梨インターチェンジ）

公共交通:

- JR西日本北陸本線加賀温泉駅より周遊バス「キャンバス」で「日本自動車博物館」バス停下車。

脚注

- ↑ ^a^b^c^d “車の博物館が「トイレ」にこだわる理由 15カ国から56台を集めました” (<https://withnews.jp/article/f0180802004qq0000000000000000W00o10101qq000017756A>). withnews. (2018年8月2日) 2019年5月14日閲覧。
- ↑ “popress 【特集】トイレ 世界の入り口” (<https://www.chunichi.co.jp/hokuriku/article/popress/feature/CK2016022602000228.html>). 中日新聞. (2016年2月26日) 2019年5月14日閲覧。
- ↑ ^a^b 竹内誠監修 『知識ゼロからの博物館入門』 幻冬舎 2010年 92ページ
- ↑ 「映えるトイレ 大集合／15か国の56個 石川に／SNSで人気」『読売新聞』夕刊2018年10月17日（12面）。

参考文献

- 竹内誠監修 『知識ゼロからの博物館入門』 幻冬舎 2010年 ISBN 978-4-344-90184-1 C2076

外部リンク

- 日本自動車博物館 (<http://mmj-car.com/>)（公式サイト）
- 日本自動車博物館 (<http://www.ishikurosangyo.co.jp/business/car-museum.html>) - 石黒産業

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=日本自動車博物館&oldid=72968665>」から取得

最終更新 2019年6月2日 (日) 08:41（日時は**個人設定**で**未設定**ならば**UTC**）。

テキストは[クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス](#)の下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。